

## 第94回神戸大学経営協議会議事要録

日 時 令和2年11月24日（火） 13:27～15:06

場 所 神戸大学本部 大会議室 及び WEB（Webex使用）

出席者 武田議長（学長）、  
金子委員、佐藤委員、齊藤委員、坂井委員、坂田委員、高土委員、  
寺島委員、平尾委員、藤井委員、水谷委員、小川委員、岡田委員、  
杉村委員、吉井委員、品田委員、中尾委員、上野委員

（オブザーバー）吉田副理事、外村監事、林監事、坂本副学長、齋藤副学長、  
大月副学長、増本副学長、國部副学長、中村副学長

欠席者 井戸委員、久元委員

議事要録について

第92回及び第93回経営協議会の議事要録について、特段の意見はなく、役員会として確認の上、神戸大学のホームページに公表する旨説明があった。

審議事項

- 1 国立大学法人神戸大学職員給与規程等の一部改正について  
期末手当の支給割合の改定に伴い、以下の規程等を一部改正することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
  - 1 国立大学法人神戸大学職員給与規程
  - 2 国立大学法人神戸大学年俸制適用職員給与規程
  - 3 国立大学法人神戸大学年俸制適用教員（退職手当支給型）給与規程
  - 4 国立大学法人神戸大学役員報酬規程
  - 5 国立大学法人神戸大学準正規職員就業規則

報告事項 [委員からの主な意見等（○：意見・質問）]

- 1 令和2年人事院勧告（月例給）について  
令和2年人事院勧告（月例給）について報告があった。
- 2 令和2年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の採択結果（内定）について  
令和2年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の採択結果（内定）について報告があった。

○ 審査結果について、「成果目標設定の妥当性」の観点では、採択された大学の平均値より高い評価を受けている一方、全学体制で臨む姿勢とされている「本事業に対する姿勢」の観点では、全体の平均値より低い評価となっていることは残念である。

→ 本学の審査結果は、採択された大学の平均値より低いのはご指摘のとおりであるが、採択された大学の平均値の全容は分かっていない。申請書の書き方にも問題があったのかもしれないので、次回以降の申請では、この点に気を付けて臨みたい。

○ 本事業に関連して、神戸市と神戸新聞社などで、神戸市知的交流拠点

「ANCHOR KOBE（アンカー神戸）」を開設する。これによって、産学官連携を基盤にした実践的なプログラムを足がかりに、業界の垣根を超え交流を促し、神戸発のイノベーション創出を目指していきたいので、是非活用について検討いただきたい。

→ 既にお話をいただいております、対応しているところである。

○ 本事業に関し、補助金額及び自己負担額はどのくらいになるのか？。

→ 全体事業額として約4億円、そのうち、補助金額は約1.3億円、自己負担額は約2.7億円で外部資金や学長戦略経費などを充てて実施する予定である。

3 剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について  
文部科学大臣から繰り越し承認のあった剰余金について、教育研究の質の向上及び組織運営の改善のための目的積立金とする旨報告があった。

4 2020（令和2）年度第2四半期資金運用実績報告について  
2020（令和2）年度第2四半期の資金運用実績について報告があった。

5 病院セグメント 令和2（2020）年度上半期決算について  
病院セグメント 令和2（2020）年度上半期決算について報告があった。

6 令和3年度概算要求の概要について  
令和3年度の概算要求の概要について報告があった。

○ 「成果を中心とする実績状況に基づく配分（共通指標）」が増加し、「各大学の評価指標に基づく再配分」が減少する中、運営費交付金にて措置されているもののうち、評価対象に馴染まない予算が減少されると困るものがあると推定するが、限度にかかる議論はあるのか？

→ 令和3年度に向けては、「成果を中心とする実績状況に基づく配分（共通指標）」が増加していくだろう。共通指標分が増えていってしまえば、今後、大学はもたなくなっていく。どこかで歯止めをかけ、サステイナブルなシステムになるよう、第4期に向けて国立大学協会として文部科学省へ訴えて参りたい。

○ この議論については、財務省を説得するために、論点を示さないと進まないのではないかと？

→ 大学の人材養成は社会の要請にできていないなど産業界から厳しい意見がある。国立大学協会では、第4期に向けた評価指標の在り方について、相手の土俵に乗らないよう、運営費交付金を増やすオプションも含めて検討している。

7 令和元事業年度 重点支援③16大学 財務諸表分析資料について  
重点支援枠の1つである重点支援③の対象16大学の財務諸表について報告があった。

○ 神戸大学は10位くらいで固定化されつつある。相対的な競争位置関係よりも神戸大学として、どのような特徴を出していくのかが必要ではないか？また、重点支援③の16大学といっても、常勤教員数や大学の規模にバラツキがあり、これだけ規模が違う中で比較してもあまり変わらないのでは？

→ おっしゃるとおり、ある意味で固定化されており、大学の特徴を出す必要がある。本学では、科学技術イノベーション研究科による大学経営

改革やV.Schoolなど他大学にないものを実施して努力しているが、文部科学省がどのような評価をするのかは分からない。

また、常勤教員数や学生数なども固定化されている中、地方の活性化による地方の国立大学の学生定員数を増やす話もあるが、大きな動きにはならないのではないかと思っている。本学は、世界と伍して戦うと言っておきながら、国内でこのような戦い方では駄目という厳しいご意見として承る。

8 国立大学法人ガバナンス・コードについて  
国立大学法人ガバナンス・コードについて報告があった。

○ 国立大学法人ガバナンス・コードは、どのような経緯があって策定が必要となったのか？

→ 統合イノベーション戦略2019に基づき、文部科学省、内閣府及び国立大学協会との三者の協議により策定されたものである。

○ 今の国立大学は、他にもいろいろな評価がなされており、その中でガバナンスに関することも評価がなされているはずで、敢えて、また、国立大学法人ガバナンス・コードという形で出てくると屋上屋を重ねることになるのでは？

→ 大学機関別認証評価においてもガバナンスの観点があり、将来、大学機関別認証評価と国立大学法人ガバナンス・コードが統一されることを願っている。

9 神戸大学発スタートアップIGSのストックオプション取得について  
本学発ベンチャーである株式会社Integral Geometry Science (IGS) に対し統合研究拠点のスペースを貸与し、対価として同社のストックオプション（新株予約権）を取得することについて報告があった。

10 その他  
シンダイシンポ2020が開催されたことについて報告があった。

◎ 次回は、令和3年1月25日に開催予定。